



Book Review

評者:山田眞佐美

大阪国際がんセンター 10階なでしこ病棟 看護師長

統計解析なんかこわくない

データ整理から学会発表まで 第2版

著:田久浩志/本体:2400円+税

発行:医学書院/TEL:03-3817-5657



研究の強力な道案内に

看護研究に迷えるナースの心強い味方、田久浩志先生の待望の改訂。「異性の友人を作るには」「看護師の妻と夫の認識の違い」「デートに誘ってくれる人によるヒールの高さの違い」「イッキ飲みは男らしい?」といった心をくすぐる問いの数々が、 χ^2 検定、 t 検定、Wilcoxonの符号付順位和検定など、活用頻度の高い検定手法とふんだんな図表を用いて、科学的かつ軽やかに解説されている。読者が実際に操作するExcel画面は、注意するポイントが赤色で示されていて、数字が並んでいても目に優しくてぐんぐん読める。まさに田久マジック。

本書のタイトルは『統計解析なんかこわくない』だが、サブタイトルの「データ整理から学会発表まで」が表すように、研究初心者でも、このとおりに行えばサクサクと進められそうな気がする1冊となっている。

この、うまくいきそうな気がする、という感覚こそが、研究を成功に導く大切なキーワード。かく言う筆者も、本書の前身である「看護研究なんかこわくない」を2000年に手にしたことがきっかけで田久マジックにかかり、初めて取り組んだ看護研究「茶髪はどこまで許せるか——看護職員からみた茶髪の評価」調査を行い、学会発表までできたのだから驚きだ(本書162ページでも掲載)。

この研究で私は統計解析を通じて、茶髪は陽気で明るく見えるが、まじめ、信頼できるというイメージ

は低下する、だからそれを考慮しておしゃれをしてみてください、という身だしなみ指導のエビデンスを得た。おしゃれは自分視点、身だしなみは相手視点と説得力ある指導につながり、研究のおもしろさを知ることができた。おかげさまで今も研究活動を続け、たくさんのすばらしい人たちに出会い続けている。1冊の本により、世界が広がり人生が変わったのだ。

現場ではさまざまな問題がおきている。神は細部に宿るというが、疑問に感じた事柄に対して、データ(事実)を集め、統計解析を行い、エビデンスを示すことは、経験や慣習にとらわれることなく、謙虚な姿勢でただひたむきに現象の奥に隠された真実を探索することだ。

初めて研究に取り組もうとした筆者が、世にたくさんある研究解説本のなかから田久先生が執筆された1冊を選んだ決め手は、紙の手触りと質感、やさしそうな雰囲気、何よりこれなら読めそうと思った本の薄さだった。温かみのある綺麗なグリーンと白字のさわやかなコントラストの表紙。ページをめくると、程良い大きさの文字、緑・紫・オレンジなどの調和のとれた色彩、そして滑りの良い紙の質感は、初めて研究を学ぶ方や統計に苦手意識のある方にとっても、研究活動に光を照らし成功へと導く強力な道案内となるに違いない。本書を一度手にとりページをめくってみて、この書評の真偽をお確かめいただきたい。